



子育ての知恵袋

2026年3月 No.12

ことば遊び ~ことばをつくろう~

2026年1月2月版では、発音の発達に関するお話を書かせていただきました。今月は、ことばが音の集まりであることの理解を通して、覚え違いや、言い間違いに気付くきっかけになる遊びをご紹介します。

『ことばをつくろう』（文字を読めることが前提になります）

用意するもの：白紙・ペン

遊びかた；紙にことばを書きます。それをはさみで切って並びを替え、提示します。

「なんのことばができるでしょう」

(例) **こ た ま** を並び替えると → **た ま こ**



*最初は、はさみで切るところを見せながら行くと、ことばが音の集まりであることに気付きやすいです。**たまご** → **た ま こ** → **こ た ま**

*最初は3文字から。慣れたら身近なことばで文字数を増やしていきましょう。

や た こ き → **た こ や き**



** 『しりとり』 や 『3文字のことば集め』 『**あ**で始まることば探し』なども、おすすめです。

~子どもと楽しむ行事~

ひな祭り？桃の節句？

1年を通して、季「節」の関わりをお話してきました。3月にも節句がありますね。

昔中国では、川に入って身のけがれを清める風習があり、それが日本では紙の人形に託す「流しびな」の行事になっていきます。平安時代には子ども達の人形遊び「ひいなのおそび」が結びつき、後に人形や道具を飾って女の子の成長と幸せを願うひな祭りになりました。

中国では、桃には邪気を払う力があるとされ、桃の花が咲く3月とこれらの行事が融合していったようです。

端午の節句と違い、ひな祭りは古くから人形と結びついたため女の子の節句の認識ですが、就学前の学びの場では、全ての節の行事は子どもの健やかな成長を願うものとしています。

日本に根付く“こころもち”

地球上様々な場所で、受け継がれてきた伝統が外部の力によって壊されていく歴史が繰り返されてきました。そういった事が少なかった日本は、逆にアイデンティティを持ちにくい場合もありますが、次世代に引き継いでいきたいものです。



行事にこめた願い

ひな祭りは、観光で訪れたい地域もたくさんありますね。筆者が柳川で見た「さげもん」と言われる吊るし雛。旧家の方に代々のひな人形と共に丸一日かけて飾りつける想いと熱意を伺い、見ごたえのあるものでした。

《ひし餅・甘酒・蛤・ちらし寿司・ひなあられ》

スーパーにも売っていたひし餅は、今は殆ど見かけなくなりました。時代と共に変化するものがあっても行事食がなくなる事はなさそうです。食に込められた願いを感じつつ、何を食みましょうか。

季節を感じ、今生きている事に感謝する。行事の度に感じるきっかけになれば幸いです

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます
夢と希望もてる たからっこを
応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター
〒665-8665 宝塚市東洋町1-1
電話 0797-71-1141(市役所)
0797-77-2132(直通)
FAX 0797-71-1891
E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp



★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。